

AI-DRIVEN SDP

//Code Never Sleeps_

FUJITSU

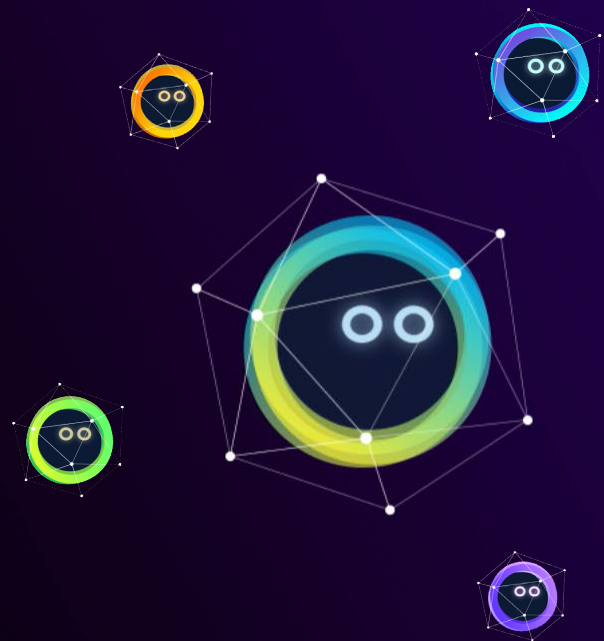
AIが変革するシステム開発

富士通が描く AIドリブン開発の未来

2026年7月

富士通株式会社

富士通Japan株式会社



Fujitsu

ワトモ

Watomo

Watomoは日本語の「輪」「友」「共に」を由来とし、
課題を中心に仲間と輪になって囲み、
知恵を出し合いながら
和をもって1つのアクションに結び付ける光景を
イメージしています。

人と組織、そしてAIと協働を重ねながら世の中を
より良くしていく
AIエージェントであることを意味しています。

// What defines the next era? _





AI-Driven Software Development Platform

AIエージェントが自律的に連携し、要件定義から設計・実装・結合テストまでの
開発プロセスを一気通貫で実行するAIドリブン開発基盤

長年の法制度改正で複雑化した 大規模既存システムの改修に挑む



ヘルスケア領域



行政領域

開発プロセス全体をAIが自律実行する

- 部分最適ではなく、一気通貫の自動化へ -

FUJITSU

🔍 要件定義

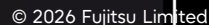
🔧 設計

📱 実装

📋 総合テスト

一気通貫





システム改修は、人の作業からAIの作業へ

3人月



4時間

約 100 倍の生産性



公開マスタ設定（チェック）：マスタ内に登録されている「湿布薬」の用語を全て「貼付剤」に変更する。

あわせて、「貼付剤」対象範囲を鎮痛・消炎目的での使用（麻薬・向精神薬、専ら皮膚疾患用を除外）に限定する定義ロジックへ修正。

リフィル制限の判定対象も、「限度が定められている貼付剤」へ変更し、「がんでの鎮痛目的」の場合を除外するロジックを追加する。

処方指示ツール（処方指示画面）：画面上に表示されている「湿布薬」の表記をすべて「貼付剤」に差し替える。

リフィル処方の可否判定ロジックを「貼付剤」定義に則って改修し、「限度が定められている貼付剤」かつ「がんでの鎮痛目的」以外ではリフィル不可とする条件に修正。

院外処方箋印刷：処方箋に出力される医薬品種類の表記を「湿布薬」から「貼付剤」へ変更する。

リフィル回数やリフィル可否欄も「貼付剤」の新基準に合わせて記載仕様・印刷内容を見直す。



Multi-layer Quality Control

システム開発は人とAIが協働する時代へ

— AIが実行し、人が判断する —



社会の変化に追隨できるシステムが ビジネスの競争力を決める



法制度改正



市場変化



顧客ニーズ



業務改革

The background image is a surreal landscape. A woman in a dark dress stands in the center-left, facing right. She is positioned within a vertical beam of light that transitions through a rainbow spectrum from blue on the left to red on the right. The ground is a cracked, dry, brownish surface. In the background, there is a body of water and a horizon line under a sky with soft, colorful clouds in shades of orange, pink, and blue, suggesting a sunset or sunrise.

変化を、競争力に。

Build at the Speed of Change



FUJITSU

AI-Ready Engineering

- AIドリブン開発を支える「仕込み」 -

FUJITSU



Human-Readable



人間には
理解できる
システム資産

AI-Ready
Engineering

AI-Readable

AIが
理解できる
システム資産



AI-Ready Engineering は、既存システム資産をAIが理解できる形へ変換する「仕込み」
AIドリブン開発は、この「仕込み」とSDPの「実行エンジン」の両輪で実現する

AI-Driven Software Development Platform



Turning Knowledge into Continuous Delivery Capability — 知見を、継続的な開発力へ —

Customer Value

Time to Marketの短縮

品質向上

開発力の継続的な進化

技術変化への柔軟な対応

AI時代の持続的な競争力

知見を組織資産へ

Core Capabilities

AI-Ready Engineering

AIが既存システムを理解できる状態を構築

Autonomous Development

要件定義から結合テストまで自律実行

Engineering Knowledge Foundation

顧客・富士通の知見を契約に基づき蓄積・標準化・再利用

業務ノウハウ

開発ノウハウ

設計思想

品質ナレッジ

Platform Capabilities

Multi-Model Orchestration

最適なAIモデルを柔軟に選択・活用

Governance

セキュリティ・コンプライアンス・アクセス制御

Design Principles



AI Native



Knowledge-Driven



Multi-Model



Sovereignty

AI時代のSIは、進化し続けるシステムづくりへ

変化に追随するシステムから、変化をとらえ価値に変え続けるシステムへ。

Step 01

AI-driven Development

要件定義

設計

実装

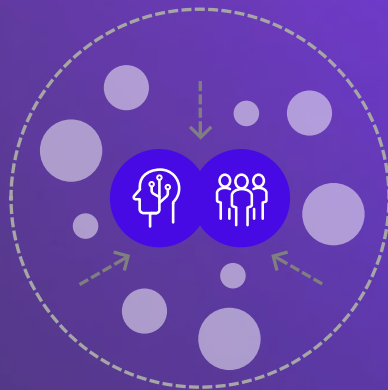
テスト

開発プロセス高速化

社会・事業の変化に
システムが追いつく

Step 02

Modernization for AI



AI × Human

AIが働ける
アーキテクチャーへ

Step 03

Data Flywheel

AI実行

改善

蓄積

学習

運用データが
継続的な価値創出の源泉



FUJITSU

AI活用から、企業変革へ



変化を、共に切り拓く。
Navigating Change,
Together.

Thank you

Contact :
AI Innovation Center
Fujitsu Limited